

平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(尾鷲市)の概要 【速報版】

10月1日(水)に「三木浦ゲストハウス」で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、地域資源を活用した地域の活性化に取り組んでいる「三木浦元気プロジェクト実行委員会」関係者の皆さん8名に、尾鷲市長を加え、活動内容や課題、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

会長から団体の活動、町内会長から町内会の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自身の主な活動の報告を含め、自己紹介していただきました。

(「三木浦元気プロジェクト実行委員会」の活動内容紹介)

○農林漁業体験民宿「三木浦ゲストハウス」の運営や、毎月第三日曜日に三木浦町の特産品等を販売する「三木浦こいやあ」の販売支援事業、漁業体験事業、健康ウォーキング事業、三木浦町のポータルサイト構築事業などに取り組んでいる。

(三木浦町内会の活動内容紹介)

○伝統行事を守っていくために、夏祭り、追善供養花火大会、神社のお祭りなどを開催している。その他、町内では、真鯛の養殖や椿油の製造、魚の燻製の販売などに取り組んでいる。

Q. この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、達成できたことなどはありますか。

○大型モーターヨットのデザインを仕事にしており、1ターンで、10年ほど前から三木浦町で生活を始めたが、立派な空き家があるまま放置されていることをもったい

ないと思った。先月、地元の皆さんにも協力いただき、空き家を改修した「三木浦ゲストハウス」をオープンさせることができた。

- 「三木浦ゲストハウス」の家主として、「三木浦元気プロジェクト実行委員会」に参加しているが、ただ朽ちていくだけだった空き家を「三木浦ゲストハウス」として多くの方に利用していただいて、ありがたく思っている。
- 鯛やマハタの養殖を行っているが、三重県尾鷲栽培漁業センターから、マハタの飼料を仕入れるとともに、指導を受けることで、マハタの出来栄が良くなってきて、スシローで期間限定販売していただくことになった。
- 大正 13 年から漁業会社を営んでおり、船は主に海外や仙台沖で操業しているが、尾鷲で水揚げした魚を尾鷲産や三木浦産として販売し、地元の活性化に取り組んでいる。「尾鷲産もちもちマグロ」のプロジェクトとして、県や尾鷲市、尾鷲漁協にも協力していただいているため、これからもがんばっていきたい。
- 三木浦の婦人会長として、「三木浦こいやあ」などに携わっており、三木浦の特産品などを、地域外の人に知ってもらえるよう情報を発信している。「三木浦こいやあ」はアンテナショップとして、地域外から来るダイバーの方などに販売することを目的に始めたが、地元の方もすごく喜んでくれた。物が売れるという効果だけではなく、お年寄りの方が集まって会話するなどの効果もあった。
- 「三木浦こいやあ」は、テントのセットを自治会で用意してもらうとともに、各種道具の保管のために漁業会社の倉庫を貸してもらうなど、さまざまな方にボランティアで協力していただいている。
- 年間 1,000 人くらいの釣り客商売をやっているが、釣り客が来ない昼間に、鯖や鰯の燻製を作っており、「三木浦こいやあ」の売れ筋商品になっている。
- 「三木浦こいやあ」に毎回参加して、手作りパンの販売などを行っているが、一番の売れ筋商品となっている。
- 「三木浦元気プロジェクト」は資金 0 からスタートし、「三木浦こいやあ」ののぼりなどはすべて手作りしていることから、みんなと一緒に作ったという達成感を味わうことができた。

Q. これからの更なる飛躍に向けて課題になっていることをお聞きしたい。

- 椿油はコミュニティセンターで作って商品化しているが、コミュニティセンターの厨房はいろいろな人が使っており、専用の施設ではないため、保健所から許可が得られず、効能をPRすることができない。
- 農林漁業体験民宿は、基本的に農林漁業者が住んでいる家の空いている部屋を使うことを想定しているが、交流人口を増やすために、任意団体でも一定の管理ができる場合は、空き家を活用して民宿を運営できるようにしてほしい。
- 空き家を埋めるためには、産業を育成して、都会から来る人に提供する仕事を作る必要がある。
- 地区外から人を集めるためには、小学校も幼稚園も必要である。是非、地元の小学校を残してほしい。

【市長の発言】

○皆さんのいろいろな活動が、これからの尾鷲を支えていくと思っているため、みんなまで三木浦を作っていきたい。

【知事の発言】

○椿油の製造に関する保健所の許可については、食関係の規制になるため緩和は難しい部分があるが、どういうルールに基づいて行われているか確認させていただく。

○民宿の規制緩和について、都市農村の人の交流や空き家の活用は、国のムーブメントでもあるため、私たちももう一回ルールを確認させていただいて、国への提言などを検討していきたい。

○働く場の創出については、県の南部地域活性化局で、南部地域の働く場を作って、定住人口を増やす取り組みを行っているため、今後とも一生懸命頑張っていきたい。

○小学校の存続については、市にとって難しい判断になる。地域 みんなで学校の統廃合について議論することが大事だと思う。

○これだけ一生懸命みんなで何とかしなければいけないと思って、実際行動をさせていただいていることは、私たちも本当にありがたく思っている。これからも全県の、あるいは日本の漁村の模範となり、リードしていくような取組をしていただきたい。



「三木浦元気プロジェクト実行委員会」は、地域の活性化を目的に、平成25年10月に地元住民20人の有志で立ち上げた団体で、農林漁業体験民宿「三木浦ゲストハウス」を活用した田舎暮らし体験、漁業体験、地域の情報発信、地場産品販売などに取り組んでいます。